

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年4月15日

事業所名 首里きらめき

| | チェック項目 | はい | どちらともいえない | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|-------------------------------|--|----|-----------|--|--|---|
| 環境・体制整備 | 1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | 4 | 2 | 1 | ・整備が必要 | 施工会社と事業所内の改修箇所を確認し、改修計画を進めている |
| | 2 職員の配置数は適切である | 3 | 2 | 2 | ・足りないと思う。 ・全介助の児童も多い為、もう少しゆとりがあれば、支援も充実する。 | 更に土曜、祝日、長期休みの際の職員増員を目指したい |
| | 3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | 2 | 4 | 1 | ・フロアがコンクリートむき出しになっており、バリアフリーがないため危険 ・事故防止の為、改修検 | 施工会社と事業所内の改修箇所を確認し、改修計画を進めている |
| 業務改善 | 4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | 4 | 3 | | ・事業所会議にて、振り返りしている | 事業所会議や申し送り帳等を通して職員全体に周知徹底する |
| | 5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | 5 | 2 | | ・アンケート以外にも、モニタリングを通して、意向を聞き取りしたい | 年一回評価表も活用しながら、モニタリング、担当者会議等でも意見を伺い、丁寧な対応を心掛ける |
| | 6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | 7 | | | ・毎年、実施している | HPにて公開している |
| | 7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | 2 | 5 | | ・アンケートの回答を参考に業務改善を図っていく | 法人として設けていない為、実施していない |
| 8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | 6 | 1 | | ・なるべく全スタッフが出勤する曜日に設定して、機会を確保している。 ・動画研修、チューター研修、管理者研修など充実して | 外部講師研修、動画研修・チューター研修を積極的に取り入れ行うことができた | |
| 適切な支援の提供 | 9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | 6 | | 1 | 日々の保護者との交流の中で、情報共有を行うようになっている | 保護者・学校・相談員・関係機関とのモニタリング内容を個別支援会議にて共有し支援計画書に反映していく |
| | 10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | 4 | 3 | | 発達段階早見表を活用している | 標準化されたツールを職員間で共有し活用していく |
| | 11 活動プログラムの立案をチームで行っている | 5 | 2 | | 毎月の活動プログラム表(基本活動)を作成 | 支援会議にて職員から多くの意見を募っていく リーダーが他職員と相談しながら詳細を決 |
| | 12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | 5 | 2 | | 月のプログラム作成時に様々な活動を偏りなく入れている | 状況に合わせて、外出なども取り入れて、活動の幅を広げていきたい |
| | 13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | 4 | 3 | | 事業所会議の際にその月の大きな行事や活動内容を話し合っている | 事業所会議にて、毎月の目標を決め活動に反映している |
| | 14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | 4 | 3 | | 活動内容は個別又は集団の目標を立てている | 利用児の希望も聴きながら、個別活動と集団活動の実践をしていく |
| | 15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 4 | 2 | 1 | 申し送り帳の活用と活動前にリーダーからの伝達を主としている | 全員揃った時間確保が出来ない場合は事前に話し合うようにしていく |
| | 16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | 4 | 3 | | 出勤時間が異なる為申し送り帳を活用している | 退勤時間が異なる為、急ぎの内容によっては緊急ミーティングを行い、申し送り帳の活用もしていく |
| | 17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | 6 | | 1 | 日々日報に個別の記録入力をしている | 今後も記録を欠かさず記載。日報に記載されている内容を支援会議にも役立てていく |
| | 18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | 7 | | | 3ヶ月～6ヶ月おきのモニタリング会議実施 | 毎月のケース会議の題材として、日々の記録の見直しを行い、計画の進捗状況を確認している |

| | | | | | | | |
|--------------|----|---|---|---|----------------------------------|--|---|
| | 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている | 3 | 4 | 様々な基本活動を組み合わせている | 全職員にガイドラインの周知を徹底したい | |
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | 6 | 1 | ・必ず参加できるよう連携を取り日程調整している | 主に児童発達支援管理責任者が参加している | |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | 5 | 2 | 日々保護者や学校と情報共有を行っている | 年度始めに学校で開かれる事業所向け説明会に参加し、日々保護者と調整を行っている | |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | 2 | 4 | 受け入れ時に事業所ができるケアを説明し保護者了解のうえ受け入れる | 医療的ケア児の児童を受け入れる場合は、担当者会議や指示書をもとに行う | |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | 3 | 3 | 担当者会議への参り | 担当者会議にて就学前の様子などを聞き取りしている | |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | 2 | 3 | 担当者会議への参り | 担当者会議にて卒業前の様子などを聞き取りしている | |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | | 4 | 療育医療センターの訓練見学に出向き、支援方法の助言を頂いている | 支援センターとの連携は不十分なので、今後は療育センターで行われている研修等を調べたい | |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | | 2 | 積極的に取り組みたい | 地域の協力を得ながら積極的に計画したい | |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | 1 | 4 | 参加できていない | 情報を収集したい(開催場所など) | |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | 7 | | 気になる事があった場合はすぐに保護者に連絡を取り情報を得ている | 困り感や家庭での様子を聞き取りしながら、共通理解を図っていく | |
| | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | 3 | 3 | 1 | トレーニングというよりも障がい受容段階の気持ちに寄り添うことをメインにしている | ペアレント・トレーニングという形まではいかないが、当所での成功例をあげ子どもへの促し方などを話し合っている |
| 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | 6 | 1 | 契約時に読み合わせている | 職員全体で説明ができるよう研修などを通して制度等を学んでいく | |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | 7 | | 専門的なことは調べて助言している | 保護者の悩みは常に聞き入れながら、必要時には面談を行う | |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | 1 | 2 | 4 | 例年3大イベントを企画していた | 事業所独自の開催を検討していく |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | 6 | 1 | | 事業所だけでなく会社全体で対応させて頂いている | 苦情内容について職員全体で検討し、再発しないように改善していく |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | 3 | 3 | 1 | 月間プログラム予定で活動予告はしているが、報告までできるような体制を整えてい | 児童の様子がわかるブログ発信やお便りなどを作成・配布したい |
| | 35 | 個人情報に十分注意している | 7 | | | 職員全体で配慮している | 個人ファイルに関する書類は、厳重に保管しています |
| | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | 7 | | | 様々なコミュニケーションツールを活用している | 日頃の関りや保護者様には送迎時等に報告していきたい |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | | 4 | 3 | 現在できていない | 地域に開かれた事業運営はできていないので将来的に検討したい |

| | | | | | | | |
|---------|----|--|---|---|--------------------|-------------------------------|---|
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | 4 | 3 | マニュアルはあるが、保護者周知は不足 | 職員は研修や訓練を通して周知。保護者への周知も努力していく | |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | 7 | | 年間訓練計画書を作成 | 年2回、防災・防火訓練実施 | |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | 7 | | 虐待防止の研修を行っている | 社内職員研修で虐待防止について学んでいる | |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | 5 | 1 | 1 | 契約時に身体拘束に関する同意書の説明をしている | 同意書はあるが、計画書記載については再度、確認していく |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | 6 | 1 | | 保護者を通し、アレルギー検査結果表の提出を促している | 保護者からの説明だけ受けている。また、アレルギー検査の結果表をもとに食事(おやつ)のメニューに役立てている |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | 5 | 2 | | ヒヤリハット報告書は作成しているが事例集は作成していない | 書類作成し職員全体で読み合わせ事例検討し、見やすい場所に保管している。今後の為、事例集作成も検討したい |